

テーマ：－先輩教えて！！バイタルサインのこと－

カテゴリ：③教育方法（演習）

学校概要：学校名：和歌山県立高等看護学院 所在地：和歌山県紀の川市西野山 505 番 1

課程名：3年課程 1学年定員数：50名 修業年限：3年

内容：【学び合い】

毎年7月、1年生のバイタルサイン演習が実施される。この時の先生は3年生だ。血圧・脈拍測定、心音・呼吸音聴取などの技術やその基となる知識やコミュニケーションを1年生に伝えていく。

1年生・3年生は、それぞれ教科担当教員により分けられたグループ（4～5人）となっている。まずは、お互いペアとなるグループを探し、顔を知ることから始まる。ここで発揮されるのは3年生のリーダーシップやコミュニケーション能力だ。双方緊張の中で3年生の声が聞こえる。ペアが分かったチームは、それぞれぎこちなく挨拶し、動き始める。次に始めないといけないのは、基礎演習室での看護実践本番（ベッド上に寝ている患者Aさんの状態観察を行う）までの時間をどう使うかだ。まず何を確認しようか。誰が教えるのか。教えるペアはどうするか。「教えることが少し苦手。だけど、体は貸す！」と積極的に患者役割をとる先輩先生もいれば、決して急かさず丁寧にやさしく教える役割をとる先輩先生もいる。自分がかつ力を活かせる場所で、またそのことを3年生同士が認め合った中で協同し、チーム力を発揮する。どの先輩先生の顔も生き活きしている。1年生の「できたー」「分かった！」「先輩すごい」の反応に、更に嬉しそうで、満足気な先輩先生の笑顔が生まれる。尊敬、憧れ、目標、喜び、手ごたえ、自分への自信等々様々なものが交差していく。だんだんと教室の音が騒音ようになってくる。動きも距離も表情も変化する中、やはり緊張しながら真剣なまなざしで1年生は学んでいく。先輩先生の要求が徐々に高くなっていく。「根拠は？」どこかで聞いたようなセリフが聞こえてくる（笑）。1年生からは、「先生に教えてもらうよりよく分かった」の感想が多く聞かれる。確かにスキルはこれを機会にグッと上がる。学生の日、学生の習得したい気持ち、学生の不安・・・きっと先輩先生は最後まで寄り添い関わっているのだろう。

【憧れの先輩】

一通りの演習が済むと、各ペアグループでは個別の学習会が行われたり、授業や技術試験・テストの乗り切り方・実習等の情報交換が行われる。「解剖生理学で習った酸塩基平衡が分からないのですが・・・」の声で、先輩先生の講義が始まる。最後は拍手がおこった。（実は、事前に「・・・」教えて欲しいみただよ。の情報は流しているが・・・）「人に教えるって難しい。皆でめちゃくちゃ勉強しなおした」と胸を撫でおろしながら先輩先生達の達成感・充実感が溢れ出ている。

これをきっかけに声をかけることができる先輩、気になる後輩ができ、互いに関係を深めているようだ。卒業式には先輩先生に花束が渡される光景も見られる。

【時を超えて繋がる学び】

令和5年度、「またあれするんですよね」の声が3年生から聞こえる。1年生だった頃に先輩先生に教えてもらった記憶は強く残り、今度は自分たちが人のためにと自然と動きだし、時を超えて学びが繋がっていく。この取り組みは、学年を超えたピアによる学習効果をねらいとし、平成27年度から開始した。コロナ禍にあっても形を変えて継続し、当学の教育として定着してきた感がある。



年度は違っても、3年生はテキストを持ちサポートが定番スタイル？

先輩と楽しくお話できた。